



基調報告

「コロナ禍で顕在化した危機・リスク と社会福祉の役割」

和気 純子 （日本学術会議第一部会員
／東京都立大学）

日本学術会議社会学委員会・社会福祉学分科会主催シンポジウム
2021年6月27日 オンライン開催

報告の内容

1. 日本学術会議からの報告

2. コロナ禍で顕在化した危機・
リスクと社会福祉

3. 本シンポジウムの趣旨説明

日本学術会議の役割と構成

◦ 日本学術会議は、科学が文化国家の基礎であるという確信の下、行政、産業及び国民生活に科学を反映、浸透させることを目的として、昭和24年（1949年）1月、内閣総理大臣の所轄の下、政府から独立して職務を行う「特別の機関」として設立された。職務は、以下の2つ。

科学に関する重要事項を審議し、その実現を図ること。

科学に関する研究の連絡を図り、その能率を向上させること。

◦ 日本学術会議は、我が国の人文・社会科学、生命科学、理学・工学の全分野の約87万人の科学者を内外に代表する機関であり、210人の会員と約2000人の連携会員によって職務が担われている。

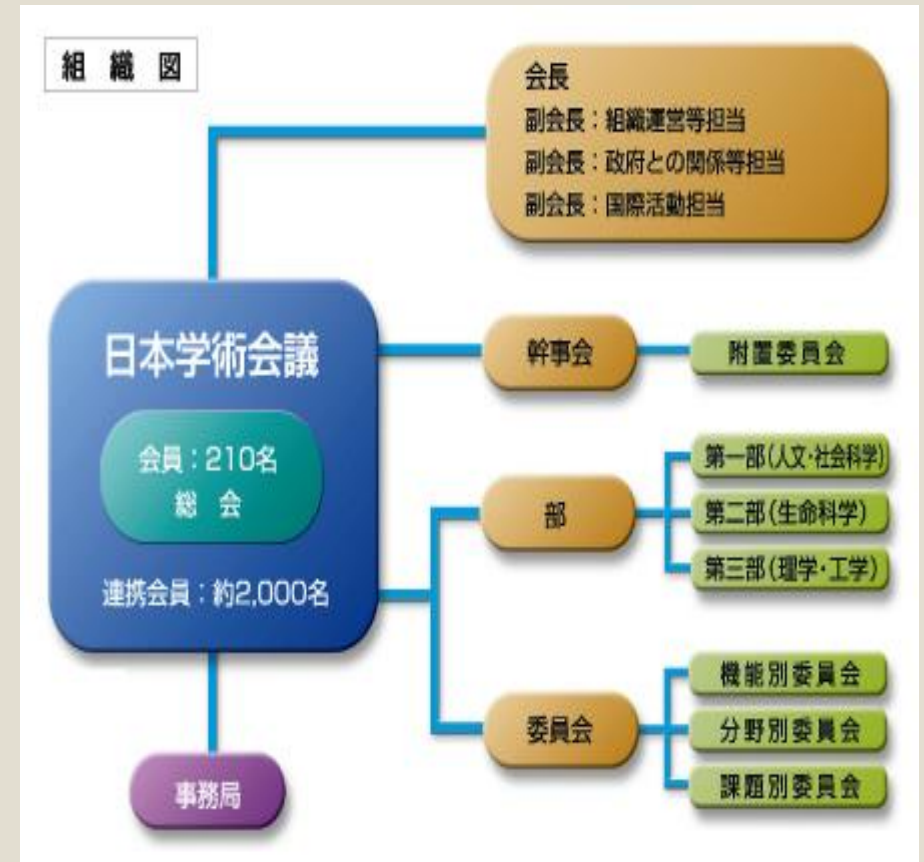
◦ 日本学術会議の役割は、主に以下の4つ。

政府に対する政策提言

国際的な活動

科学者間ネットワークの構築

科学の役割についての世論啓発



(学術会議HPより)

日本学術会議、社会福祉学関連分科会の取り組み

1999年世界科学会議 「科学と科学的知識の利用に関する世界宣言」 (ブタペスト宣言)

1. 知識のための科学：進歩のための知識
2. 平和のための科学
3. 発展のための科学
4. 社会における科学と社会のための科学

学術研究とその応用は人類の福祉を常に目的

DECLARATION ON SCIENCE AND THE USE OF SCIENCE KNOWLEDGE
Adopted by the World Conference on Science, Budapest, 1, July 1999.

社会福祉学関連分科会

- ・ 社会福祉系学会連合と連携を図り、喫緊な検討が必要な社会福祉課題について俯瞰的観点から審議
- ・ 広く関係団体とも連携し、情報共有や相互啓発を推進し、科学に基づく提言・報告の作成・発信

提言・報告

- ・ 提言「災害に対する社会福祉の役割」 (2013年) 社会福祉学分科会
- ・ 報告「社会福祉系大学院発展のための提案—高度専門職業養成課程と研究者養成課程の並立をめざして—」 (2014年) 社会福祉系大学院のあり方に関する分科会
- ・ 報告「大学教育の分野別質保証のための教育課程編成上の参照基準:社会福祉学分野」 (2016年) 社会福祉学分野の参照基準検討分科会
- ・ 提言「社会的つながりが弱い人への支援のあり方について—社会福祉学の視点から—」 (2018年) 社会福祉学分科会

会員任命拒否問題と「あり方」の論議

日本学術会議総会 2021年4月21日・22日 ⇒井上大臣への手交と記者会見

○声明「日本学術会議会員任命問題の解決を求めます」

<http://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/pdf/kohyo-25-s182-1.pdf>

○「日本学術会議のより良い役割発揮に向けて」

<http://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/pdf/kohyo-25-s182-2.pdf>

* 第25期幹事会記者会見資料(4月22日)

<http://www.scj.go.jp/ja/member/iinkai/kanji/kisyakaien.html>

各国のナショナル・アカデミーの共通要素（5要件）

- 学術的に国を代表する機関としての地位
- そのための公的資格の付与
- 国家財政支出による安定した財政基盤
- 活動面での政府からの独立
- 会員選考の自主性・独立性

改革の内容

- 科学的助言機能の強化
- 対話を通じた情報発信力の強化
- 会員選考プロセスの透明性の向上
- 国際活動の強化
- 事務局機能の強化



5要件を満たすことを前提とすれば、現在の設置形態を変更する積極的理由を見出すことが困難。特殊法人等とする場合は、個別の法律を制定するなど慎重な議論が必要。⇒その後、識者による検討委員会を設置し議論することを大臣が明言。

新型コロナパンデミックが世界にもたらした影響 ～COVID-19国別報告集（2021年7月）の分析から～

- 倒産、失業、減収、居住の不安定、債務の増加（社会的脆弱層に顕著）
- 不信、憎悪、スティグマ、差別の顕在化（アジア系、感染者、医療従事者等）
- 不安、社会的孤立、自殺の増加（時差、性差あり）
- ICTの利用可能差異による教育格差と拡大（所得、年齢、地域による差異）
- 高齢者、障がい者等の感染・死亡の拡大と閉じこもりによる心身の機能低下
- 家族（特に女性）負担の増大と虐待の増加
- 脆弱な保健医療、社会サービスの弱点の露呈
- エッセンシャル・ワーカーにおける感染拡大
- 宗教や独自の文化を無視した強権的な埋葬や隔離
- 施設入所高齢者等へのトリアージ
- 感染防護具、食料の偏在と不足
- SNSやデジタルツールを用いた面接、面会、会議、社会的つながりの変容（世代、資源の格差）

⇒既存の構造的な格差、脆弱さが顕在化し、対立と分断が拡大

国内外の先行研究（雑誌記事等含む）

Ciniiによる検索（2021年6月5日） （社会福祉×コロナ禍） （社会福祉×新型コロナ）*	件数	IASSW研究委員会レビュー** （2012年1月） （Social work×Covid-19）	件数
児童、社会的養護、母子、保育	34	ソーシャルワークとCovid-19	98
高齢者、介護（施設）	21	トリアージと障がい	70
生活困窮、生活保護	15	高齢者とナーシングホーム	60
社会福祉法人、経営、BCP	14	児童の保護	53
地域福祉、社協	10	社会政策	48
障がい者福祉	7	家庭内、女性への暴力	40
地方自治、行政	4	自殺	35
国際、海外事例	4	ソーシャルワーク教育	33
労働、人材マネジメント	3	メンタルヘルス	31
その他（精神保健、医療、SW、教育等）	29	住宅	21
計（*社会福祉と関連の低いものを除外して分類）	141		489

**[Literature-review.Covid-19.IASSW .Research-Committee.pdf](https://www.iaassw.org/research/Literature-review.Covid-19.IASSW.Research-Committee.pdf) (iaassw-aiets.org)

従来の災害福祉の枠組みと感染症災害の支援の相違

- 定型的な支援（避難所＋他地域からのボランティア活用を含む）の形態を想定した実践枠組みの限界



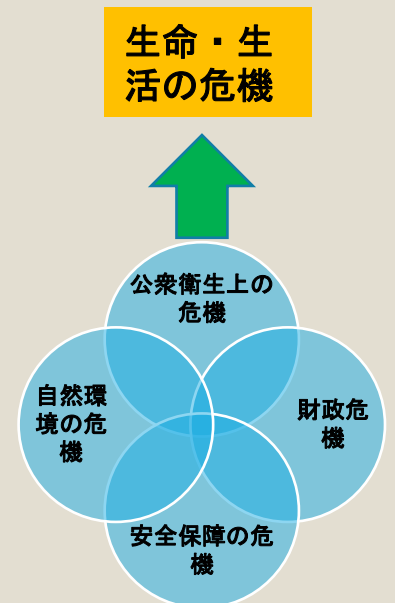
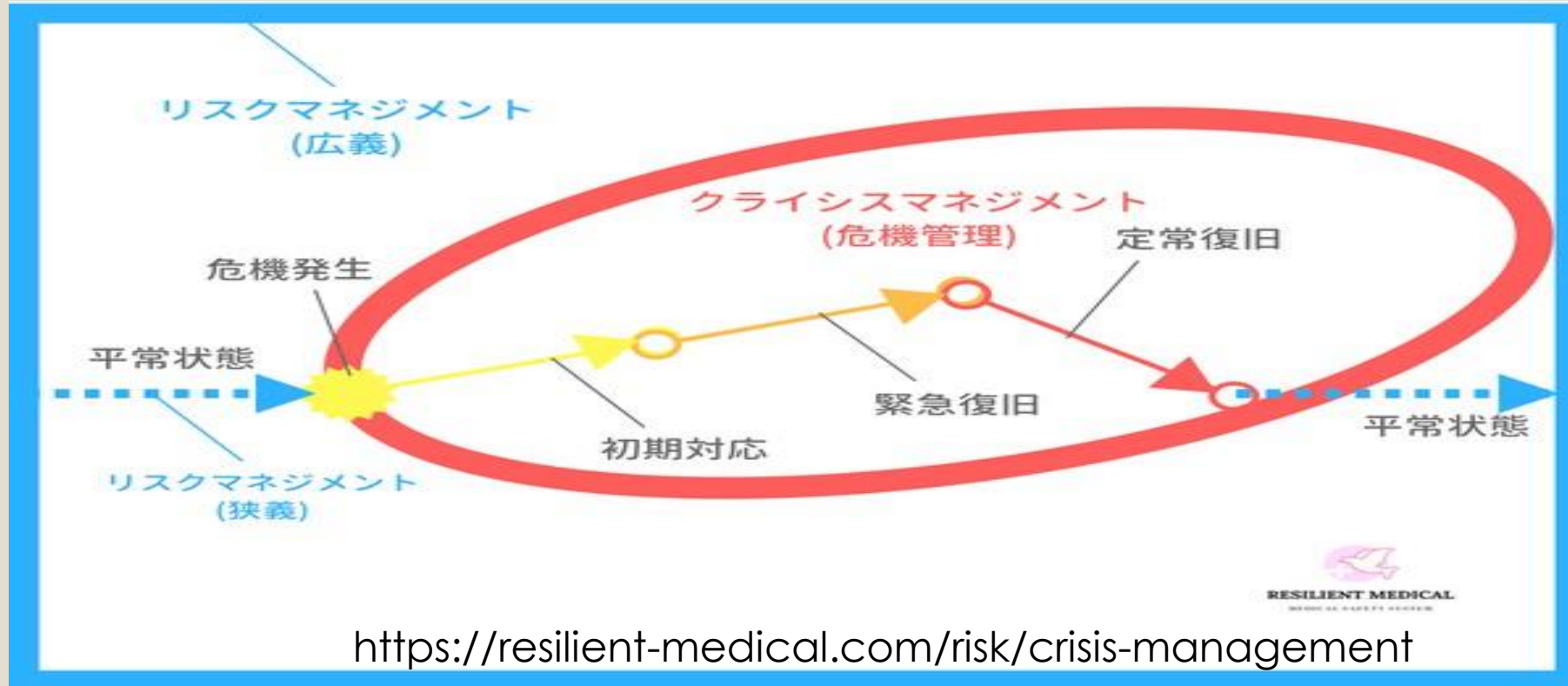
	大規模地震・豪雨災害	感染症災害
発生	突発的（一部は周期性）	突発的、波状的
期間	一時的	持続的
被災範囲	地域限定、影響固定	広域、影響拡大（グローバル）
被災対象	インフラ、ライフライン	人的資源
支援体制	代替、補完応援可能	人的応援に限界

出典：高橋（2020）を一部改変

新たな危機（感染、恐怖、不安、孤立、パニック等）を想定した新たな社会福祉方法論の確立が必要
多様な危機（公衆衛生上の危機、財政危機、安全保障の危機、自然環境の危機）に対応する社会福祉とは

* **グリーン・ソーシャルワーク**：単なる自然環境の保護にとどまらない、人と環境の相互作用のクリティカルな省察にもとづき、社会的困難を抱える一人一人の生命と日常生活を守り、ケアする実践。相互作用を比喩的に捉える生態学的アプローチとは異なる。（Dominelli, L. 2019）

リスクと危機の発生・管理と不平等



脆弱性と社会生態学的レジリエンス

脆弱性（ヴァルネラビリティ）

あらゆる人間が普遍的に有する顕在的、潜在的な弱さであり、誰もがリスクとともに生きていることを含意。

社会的脆弱性とは、「現代社会に特徴的な社会・経済・政治・文化のありようにかかわって、人々の生存（心身の安全や安心）、健康、生活（の良さや質）が脅かされ、あるいはそのおそれのある状態にあること」（古川,2006:19）

社会生態学的レジリエンス（抵抗力、回復力）

システム（相互作用する個人、家族、集団、組織、地域、国、制度、世界、自然環境）が逆境にあって、内的外的資源と交渉、活用あるいは変容させ、本来の機能や状態を維持、回復、成長させる動的なプロセス。個人あるいは生活や環境内にある資源（物質的、身体的、精神的、関係的、制度的、経済的、歴史的）や環境（制度、規範、文化、社会構造、自然環境）が、そのプロセスを促進する。（Windle, 2011, Unger, M. ed., 2013等を参照して暫定的に作成）

リスク・危機へ対応する社会福祉の役割

- リスクの社会化とは～伝統的リスク（疾病、失業、年齢）から新たなリスクへ

社会の近代化の必然的帰結として、「空間的・時間的に無境界・無限界なリスク」が社会的に生産され、近代社会そのものへの脅威となる（ウルリッヒ・ベック、1998）

例：「科学技術によって生じる有害物質」「遺伝子工学、情報技術による危険」

「環境破壊や気候変動」「金融危機」「テロ」「人工知能、生殖医学による危険」

⇒リスクの分配は富の分配と重なる部分が多い（富者はリスクによる損害を最小化できる）

⇒リスク見極めと対応「不安の共有による連帯」と「サブ政治」（国家や行政に還元されない）

⇒富の再分配からリスクの共同管理へ

技術的安全+社会的信頼+安心の形成（今田、2007）



リスクの構造的不平等をもたらす社会的脆弱性の解消・軽減
危機への対応に求められる社会生態学的レジリエンスの醸成

顕在化した課題から考える社会福祉の役割

顕在化した課題

- リスクと危機の不平等を生み出す構造的な格差と社会的脆弱性
(非正規雇用者、高齢者、女性、子ども、生活困窮者、外国人、心身に基礎疾患・障がいのある方、施設入所者、孤立状態にある方、飲食業・接客業等の従事者、介護士・保育士等を含むエッセンシャルワーカー等)
- 公共の福祉と個人の自由との対立と葛藤
- 危機がもたらす分断・排除・対立と格差の拡大
- 技術革新・デジタル化の進展と取り残される人々
- エッセンシャルワーカーとしての社会福祉従事者のうち、見えづらいソーシャルワーカー
- 国境、歴史を超えて生じるヘイト・クライムや差別

求められる社会福祉の役割

- 社会的脆弱性を生み出す構造の析出・変容と危機（回復）に至るプロセスの分析
- 社会的脆弱性をもつ個人・集団・地域のニーズの把握・分析と危機に対応する具体的な制度・方法の検討
- リスク・危機に対応しうるレジリエントなシステム（社会関係×地域×制度×専門職×自然環境）の構築
- 支援方法の多元化（例：24時間型オンライン相談、ICT、技術革新、アウトリーチ、多文化（言語）化）
- 地域、制度、国を超えた社会的つながり・連帯の形成・強化による分断、対立、憎悪、孤立の回避・緩和

本日のシンポジウム（趣旨説明）

第Ⅰ部

福祉現場からの報告～コロナ禍で顕在化した課題～

- 社会的に脆弱な立場にある人々への実践現場（地域医療、外国人支援、地域および生活困窮者支援、高齢者福祉施設）での取り組み

第Ⅱ部

コロナ禍において問いかけてられていること～社会福祉学からの問題提起

- 生存権保障、医療ソーシャルワーク、ジェンダー平等にむけた社会福祉学による考察



各領域のリスク・危機の不平等の現状と課題を精査し、提言作成

引用文献（アルファベット順）

- ウルリッヒ・ベック（1998）『危険社会—新しい近代への道—』東廉・伊藤美登里訳 法政大学出版会
- ウルリッヒ・ベック（2017）『変態する世界』枝廣淳子・中小路佳代子訳 岩波書店
- レナ・ドミニネリ著、上野谷加代子・所めぐみ監訳（2017）『グリーンソーシャルワークとは何か：環境正義と共生社会実現』ミネルヴァ書房
- Dominelli, L.(2019)「グリーン・ソーシャルワーク—日常的ソーシャルワーク実践のための視点—」『ソーシャルワーク研究』Vol.45.No.2 pp.5-13.
- Dominelli, L. and others ed. (2020)COVID-19 AND SOCIAL WORK: A COLLECTION OF COUNTRY REPORT. (<https://www.iasw-aiets.org/covid-19/5369-covid-19-and-social-work-a-collection-of-country-reports>). (2021年6月6日参照)
- 古川孝順（2006）「格差・不平等社会と社会福祉—多様な生活困難への対応—」『社会福祉研究』(97)pp.15-24.
- IASSW. Literature Review On Social Work And Social Policy Related To Covid-19 : Selected. (https://www.iasw-aiets.org/wp-content/uploads/2021/01/Literature-review.Covid-19.IASSW_Research-Committee.pdf) (2021年6月6日参照)
- 今田高俊編（2007）『社会生活からみたリスク』岩波書店
- 高橋潔(2020)「正しく知って、正しく恐れる」社会福祉研究 第139号 pp.53-57. 鉄道弘済会
- 東大社研・玄田有史・飯田高編(2019)『危機対応の社会科学 上～想定外を超えて』『危機対応の社会科学 下～未来への手応え』東京大学出版会
- RESILIENT + MEDICAL (<https://resilient-medical.com/risk/crisis-management>) (2021年6月5日参照)
- Ungar, M. ed. (2013) *The Social Ecology of Resilience*. Springer.
- Wake, J., Ohwa, M., Matsuo, K., & Virag, V. (2020)Country Report: Japan. In Lena Dominelli and others ed. COVID-19 AND SOCIAL WORK: A COLLECTION OF COUNTRY REPORT.pp.82-92. (和気・大和・松尾・ヴィラーグ監訳『新型コロナウイルスとソーシャルワーク：国別報告集』http://jaswe.jp/novel_coronavirus/doc/20201127_corona_socialwork_e.pdf. (2021年6月6日参照)
- Wake, J. Country Report: Japan. Social Solidarity in the New Global Agenda and the COVID-19 Pandemic in East Asia. East Asian Sub-Regional Webinar of Asia Pacific Schools of Social Work (World Social Work Month Event). 2021.3.26. Online.
- 和気純子「新型コロナウイルスとソーシャルワーク」日本ソーシャルワーク学会研究セミナー 基調報告. 2121.3.28 オンライン
- Windle, G.(2011) What is resilience ? A review and concept analysis. *Reviews in Clinical Gerontology*, 21, pp.152-169.